

ノリコンクリート面造成事業効果調査

担当者 技 師 高 橋 邦 夫

〃 助 手 長谷川 義 彦

I 目 的

ノリコンクリート面についての基礎的調査を行い、経済効果を高めるイワノリの増殖方法を検討する。

II 調査内容と方法

- 調査場所 西郡深浦町大字風合瀬
- 調査期間 昭和38年9月～39年2月

1) 掃除方法及び掃除適期調査

9月10日、9月30日、10月21日の3回にわたって、苛性ソーダ10%液、硫酸10%液、バーナー焼却、対照区の4区に区分して掃除を行った。(1区画は20×100cm) なお、これとは別に数平方メートルに苛性ソーダ5%、10%液、硫酸10%液の処理区を設けた。

2) 収 量 調 査

1月9日、1月30日、2月26日の3回、造成面と天然岩面について50cm²、1m²の枠刈を行い、収量、採取時間を比較した。

III 調 査 結 果

- 1) 掃除適期についてみると、9月10日処理区には、10月21日の調査時2～3cmのノリが密生していたが、9月30日処理区では着生がみられなかった。従って単胞子の放出は9月10日から30日の間に行なわれたものと思われる。ただし、この場合のノリは地元でサケノリと呼んでいる早生種である。このことから早生種を対象にする場合は9月10日以前に掃除する必要がある。所謂寒ノリの着生状況についてみると、各処理区の差は明らかでなかった。
- 2) 掃除方法による効果をみると、苛性ソーダ5%液と10%液及び硫酸10%では着生の差は明らかでなく、何れも良好な着生をみた。バーナー焼却は9月10日の処理時にバーナー故障のため処理できなかったもので、効果は明らかでなかった。
- 3) 収量調査は調査時期がやや遅れたため、処理区と未処理の所で、収量に明瞭な差がみられなかった。着生初期では顕著な差があったことからみて、早生種がすでに流失期に入っていたことも一因と考えられる。造成面と天然岩面を比較すると場所によってむらがあり様ではないが、造成面がやや上廻り、採取時間も平均30%短縮されている。

IV 考 察 と 問 題 点

掃除方法別の効果は結果で記したように 苛性ソーダ液および硫酸液で実施した何れにも良好な着生がみられたが、婦女子が対象となる本事業では、作業時の危険性の少い苛性ソーダ液によるのが経費の面から併せてみても適当である。なお、本年度の結果では、苛性ソーダ液の濃度による差は明らかでなかったが、経済性からみて、掃除効果のある最低濃度を把握することが必要である。又掃除適期は気象、海象によって年変動が予想されるので、数ケ年の継続観察を必要とする。